

# 国際協力のための知的援助リソースデータベースの作成と管理

— 平成19年度「国際協力イニシアティブ」 —

文部科学省は、2007年度より開始した国際協力イニシアティブ活動の中で、大学の分野別協力活動支援を推進するため、知的ネットワークを整備し、分野別の動向に関する調査・分析を行い、大学が有する知的援助リソースに関する助言・提言を行うことを一つの重要な活動としています。そのため、大学の知的援助リソースと途上国の開発ニーズに関する情報を広く調査・分析し、リソースとニーズのマッチング状況を明確にすることによって、国際協力の有効性や戦略性の向上に貢献することを目的とする事業を、2007年度より開始しました。

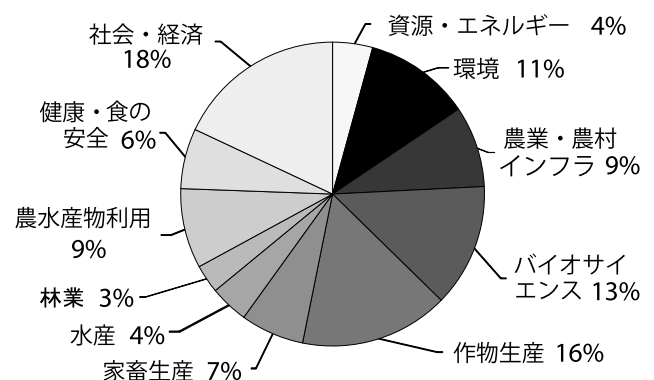
ICCAEは、「国際協力イニシアティブ」活動の中で、九州大学の熱帯農学研究センターおよびアジア総合政策センターと共同して、大学等有する農学分野の国際協力知的援助リソースデータベースの作成と管理を行う調査事業に採択され、実施しています。途上国のニーズに適切に対応した国際教育協力の効率的推進や強化のためには、大学の知的援助リソースの所在、内容および人材を一元的に把握し管理するとともに、ニーズとリソースの解析に基づく助言や提言等を行うことが重要です。また、従来のような個人レベルでなく組織として対応することが大事です。

今年度は、筑波大学陸域環境研究センターが開発したインタラクティブWebシステムを活用して、我が国の大学等有する農学分野の知的援助リソースを把握し、その多様性や所在分布を明らかにすることを目的としています。そのため、まず、農学の各専門分野からキーワード選定委員17名を委嘱し、キ

ーワード選定委員会においてリソース調査のためのキーワードを選定しました。文部科学省と協力して行った全国Webアンケート調査の結果、約3週間という短期間の調査にもかかわらず、三百数十件の登録がありました。現在その結果を解析中ですが、我が国の知的援助リソースの現状を概観し、課題を抽出するなど、今後の援助計画の策定に活用するとともに、委託元の承認のもとに公表する予定です。また、キーワード選定委員会は農学分野の知的ネットワークとして活動することが期待されています。

次年度は、同一キーワードによるWebアンケート調査を、途上国の大学や研究機関等を対象として行う予定です。ニーズの把握と解析を行い、今年度調査した我が国の知的援助リソースと途上国の開発ニーズのマッチング状況を明確にすることにより、国際協力の有効性や戦略性を高めることに貢献したいと考えています。

(浅沼修一)



大学等有する農学分野の国際協力知的援助リソースのキーワードによる分布 (73機関、330件)

## 着任挨拶

伊藤香純 プロジェクト開発研究領域 研究機関研究員

本年9月16日より、プロジェクト開発研究領域の研究機関研究員として採用され、カンボジアにおけるアグロプロセッシングの推進に関する研究に取り組んでいます。2005年4月から本年8月までの間、JICAによるカンボジアでの農林水産分野の国際協力事業に携わり、地域開発、貧困削減、自然資源管理などの様々な視点から農業振興とそのための人材育成の必要性を肌で実感してきました。この経験を踏まえ、カンボジアの農業振興や人材育成に資する研究活動を展開していきたいと考えています。



**略歴** 1974年生れ。米国ユタ大学地理学部を卒業。桜美林大学大学院国際学研究所修士課程にて国際学修士を取得後、名古屋大学大学院生命農学研究科博士課程にて農学博士を取得。2004年度以降、財)国際開発高等教育機構(FASID)、JICAカンボジア事務所、JICA派遣専門家(森林分野人材育成計画II)、インテムコンサルティング(株)にて国際協力の実務を経て2007年9月より現職。